

所沢市医師会学術講演会

平成26年6月12日(木) 19:20~(本講演は19:30~)

ベルヴィ ザ・グラン

座長 宮本町内科クリニック 院長 竹内 昭彦

講師 さいたま赤十字病院 糖尿病内分泌内科 部長 生井 一之 先生

「糖尿病診断のPitfallと治療の進歩」

抄録

糖尿病は common disease の代表的疾患となり、社会背景(生活習慣の欧米化、肥満の増加、夜型生活、高齢化など)を反映して増加の一途をたどっている。放置や管理不良による合併症は多岐にわたり、生命予後の悪化、QOLの低下をもたらしめている。また、今後の糖尿病診療の大きな課題として、高齢糖尿病患者の増加、認知機能低下等による自己管理困難例の増加が挙げられる。高齢糖尿病患者は病態、合併所、併発疾患、社会背景等の点でより多様であり、個別的な治療が必要である。

一方、糖尿病の診断、治療は日進月歩であり、本年は SGLT-2 阻害薬という、まったく新しい作用機序の薬剤も臨床使用可能となる。さらに、持続血糖モニターの登場により、血糖管理の「質」の検証が可能になった。このように医療環境は進歩したが、食事運動療法を基本とし、患者の病態や社会背景に適した治療を行う、糖尿病診療の基本は不変である。今回は糖尿病診療の「落とし穴」について、経験例をもとに考察し、SGLT-2 阻害薬も含めた、糖尿病治療の進歩についても概説したい。



